

新河岸川による洪水被害を防止するため、調節池で洪水を貯めたり、水門で洪水を逃がしたりする施設です。

荒川上流部改修から  
**100**年  
1918-2018



朝霞調節池



朝霞調節池の下流にある朝霞水門



台風4号による浸水被害（埼玉県志木市 1966（昭和41）年6月）

### 朝霞調節池・朝霞水門とは

朝霞調節池は、新河岸川の洪水を一時的に貯留することにより下流区間の河川流量を低減し、新河岸川からの洪水による浸水被害を防止するための施設です。また、一般的に新河岸川の洪水のピークは荒川よりも早く、そのため朝霞水門を開けることにより、新河岸川の洪水を荒川に分派し、新河岸川流域の浸水被害を軽減することができます。

昭和30年代後半から流域の市街地化が進み、低平地において浸水被害が生じやすい状況になりました。特に1982（昭和57）年洪水では新河岸川は総被害額211億円にも及ぶ甚大な被害が発生しました。

朝霞調節池整備事業は、1980（昭和55）年度に着手し、2004（平成16）年度から暫定供用を行い、2008（平成20）年度の施設完成により本供用を開始しました。



朝霞調節池施設位置図

